会　議　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議の名称</td><td colspan="3">第 6 回豊中市環境審議会（第 11 期）</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td colspan="3">平成 29 年 5 月 26 日（金）10：00 -12：15</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td>豊中市役所別館 3 階研修室</td><td>公開の可否</td><td>(可)・不可・一部不可</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局</td><td>環境部環境政策課</td><td>傍聴者数</td><td>3 人</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開しなかった理由</td><td colspan="3">―</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委　員</td><td colspan="3">上甫木委員、猪井委員、大久保委員、下田委員、田中晃代委員、花嶋委員、小林委員、窪委員、野村委員、廣田委員</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="3">河本環境部長、勝井環境事業長、井藤環境部次長兼環境政策課長・安好主幹・松本補佐・藤岡副主幹・今川主査・宇佐美主査・東田主査・上坂、吉村減量計画課課長・豊田係長、中村公園みどり推進課課長・三川主幹、樋上補佐・奥田係長・梅田主任</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">（株）総合環境計画、（株）プレック研究所</td></tr>
<tr><td colspan="2">議　題</td><td colspan="3">１．今年度のスケジュールについて
２．第２次豊中市みどりの基本計画素案策定の進捗状況について
３．（仮称）第２次豊中市地球温暖化防止地域計画素案策定の進捗状況について
４．第３次豊中市環境基本計画素案の策定について
５．その他</td></tr>
<tr><td colspan="2">資　料</td><td colspan="3">資料 1：平成 29 年度　スケジュール（案）
資料 2：第２次豊中市みどりの基本計画素案
資料 3：（仮称）第２次豊中市地球温暖化防止地域計画の策定について
資料 4：第３次豊中市環境基本計画素案
資料 5：パートナーシップの評価のあり方について
当日資料 1：第２次豊中市みどりの基本計画 概要版
当日資料 2：指標（目標 1）
当日差替え資料（資料 4　24 ページ）
豊中市伊丹市クリーンランド展望フロア一般開放デーのお知らせ</td></tr>
<tr><td colspan="2">審議等の概要
（主な発言要旨）</td><td colspan="3">別紙のとおり</td></tr>
</table>

〇開会

・資料の確認

・事務局新体制の紹介

〇会長

次第に沿って、事務局から案件１の資料説明をお願いしたい。

【議事内容】

１．今年度のスケジュールについて

〇事務局

（資料１平成 29 年度　スケジュール（案）についてに基づき説明）

〇会長

ただいまの説明について、ご質問、ご意見などあるか。スケジュールに沿って進めるようご協力をお願いしたい。

２．第２次豊中市みどりの基本計画素案策定の進捗状況について

〇事務局

（資料２第２次豊中市みどりの基本計画素案に基づき説明）
（当日資料第２次豊中市みどりの基本計画 概要版に基づき説明）

〇会長

ただいまの説明について、ご質問、ご意見などあるか。

〇委員

今日初めていただいた概要版は、市民説明会に使われるということか。

〇事務局

市民説明会に使うが、本編の概要版としても発行したいと考えている。

〇委員

概要版は白黒印刷にするのか。

〇事務局

今回は資料ということで白黒印刷にしているが、市民説明会や発行の段階ではカラー印刷の予定である。

〇会長

ほかにはあるか。

〇委員

市民説明会には本編は示されず概要版だけを配るのか。あるいは全員には配らないが、参加した人が希望すれば本編を見て発言ができるようにするのか。どのように運営するのか教えていただきたい。

〇事務局

説明は概要版で行い、本編をお見せする予定はない。ただ、説明するにあたっては、概要版で足りないと思われるような内容もあると思うので、パワーポイントなどで説明し足りないエッセンスを追加していく。

〇委員

自然分野で活動している人はたくさんいて、どういった人が説明会に参加するかわからないが、概要版やパワーポイントでの説明は分かったが本編の内容を見たいと言われたときに、お見せして発言があれば意見として聞き置くのか、それともそれは受け付けないのか、どう考えているのか。

〇事務局

説明会は計画書の本編を点検していただくという趣旨のものではないと考えており、方針に対して意見をいただく場としたい。計画の本編はパブリックコメントの際に改めて意見をいただく形になると考えている。

〇委員

具体の施策では例えば島熊山の保全などがあるが、島熊山で活動している市民が来られて、島熊山について本編に書かれている内容を見たいと言われたときに、本編を見せる用意があるのか。あるいは刀根山病院の記載についても関係者が説明以外に本編を見たいと言われたときに、説明会の趣旨ではないと断るのか。あるいは見せないが書いている内容に相当することを追加で説明するのか。どのようなスタンスかを知りたい。

〇事務局

本編については、内容について質問があればもちろんお答えし、他はパブリックコメントで対応すると考えていたが、その場で本編をお見せするかは改めて検討したい。

〇会長

回覧できるものを用意するなどはあってもよい気はする。細かく聞かれる方は、非常に関心が深いし、その辺りはていねいに意見聴取するのがよい。できればそのような配慮をお願いしたい。ほかはどうか。

〇委員

この概要は、とても見やすく、よくできている。そして、今回重点施策で変えたところも特徴があり、どこをどう変えたかという課題に応じて、施策の体系の重点化を図っており、部会で真摯なご議論をした結果であり、大変ありがたい。

概要版の 6 ページは重点、拡充、新規などとなっていて、どこをどう重点化したかが課題に応じてとても分かりやすくなっている。それに対して本編では、拡充には（拡）が確かに付いているが、せっかく重点施策、地域別のものなどがあるのに、どこを拡充し，どこが新規になるのかが、やや分かりにくい。例えば 90 ページの民有地の緑化は、以前から課題になっていた部分だが、ここの 19 番の住宅地における緑化は、交付制度の対象の幅を広げるところが具体策である。見せ方としては、例えばそのようなところに下線を引いて、

どこが拡大したのかわかるようにしていただけるとありがたい。

今度は中身の話であるが、重点施策が 97 ページに出てくる。この重点施策を開くと、その具体的施策の 19 や 25 のあとに、重点化を図る具体的な内容がまとまって出てくると思ったが、このページしかない。今後もこの 1 ページのみでいくのか。それとも、97 ページは全体像で、その後、それぞれの具体施策について、何を重点化・拡充し、それを地域施策レベルに落としたときに、特徴がわかるような記述が追加されるのか。

エコロジカルネットワークの形成のために、計画期間内で一体何を行うかよく読めばわかる構造になっているが、一見ではよく分からないのが 1 点である。

もう 1 点は、計画の推進方針の第 6 章である。これは推進体制となっていて、基本的に役割が示されているが、一般的に推進体制というと、組織体制や手続きのあり方である。それに関して、概要版は 3 ポツであるが、「関係部局が集まり」というのは部内の話だが、それぞれの役割分担で、参加と協働で行うことが大きく横断的な一つの柱になっている。そこでは市民、行政、事業者と別々になっていて、これを丸で囲むようになっているが、どのように丸で囲んでつなげるのかが推進体制である。そこの部分を見せていただけるととてもありがたい。実際に何をするかが非常に関心のあるところである。いずれにしても、全体として、とてもよくできた概要版である。

○会長

いまの指摘に関して、事務局からお願いをしたい。

○事務局

大きく三つあった。1 点目の本編の施策の体系のところが、概要版と少し示し方が違う点である。これは会長から、見せ方を工夫してほしいというご意見をいただいていた。この概要版には、このような形でできたが、本編には間に合っていなかった。見せ方は工夫をしていきたい。拡充した部分に下線を引くといった意見については、少し検討していきたい。

それから、重点施策は、ここまで挙げてきた 46 の施策のなかから具体施策をピックアップしたページになっており、新たなプロジェクトを設けるような位置付けではない。地域別へのつながりに関するお話もあったが、基本的にはそのようなピックアップから始まったもので、前段に書いてきたものの概要をここで書いている形になっているので、いまの意見を踏まえたなかで改めて検討をする。

最後の推進体制だが、文言については改めて検討する。また、3 者をどうつなぐかについては、どういった形でそういったものを盛り込めるか検討をする。

○会長

よろしいか。

○委員

基本的に、とても良くなっている。

〇会長

その辺りをまた部会で議論してほしい。

〇委員

部会でも、計画の目標値など議論になった。例えば、市民が参加するイベントの数や、それ以外の目標値、中長期、短期といった設定の仕方で、どのような設定をするかという議論もたくさん出てきた。基本的には、そのような意見が出たなかで、概要版 2 ページのみどりのまちづくりに重点的な視点ということで、四つの視点が拡充して、推進していくであろうという気がしている。

そこで、スケジュールの件であるが、先ほど市民説明会をパブリックコメントの前に行うという説明だった。ほかの自治体はあまり行っていない。今回初めての試みなので、非常に大事にしたい。できるだけ議論が巻き起こるようにしたい。その次のパブリックコメントは、少なくとも同じ人が同じような意見しか言わないようなものにならないようにしたい。いろいろな人の意見が出てきて、議論が巻き起こって、次の段階である計画を推進する体制にまで持っていけるような工夫が必要だと感じている。

〇会長

非常に大事な指摘である。エビデンスを作るという意味合いではなくて、しっかりと参画してもらうという意図で、市民意見を拾い上げていってほしい。

ほかはよいか。

〇委員

本編 64 ページの計画の目標に当たるところであるが、前回のみどりの基本計画策定部会で議論になった、みどりに関するイベント参加者数であるが、部会では単年度で示されていて、屋外のイベントが多く、天候などに左右されるので、単年度で評価するのはどうかと発言させていただいた。

本日は累計が出されてきており、何年間の数値を取っていくことは悪くないが、これを累計にした場合、進行管理をどうされるのか。つまり、10 年後は 15 万人を達成したかどうかの判断であるが、進行管理では毎年イベント参加者数を見ていくことになっている。従って、例えば目標値が累計でよいのか、1 年が終わったときの平均の値で見るのか。間の進行管理をどう考えていて、最後の目標値でいくのか。あるいは、最終は 15 万人であるが、途中の説明にあるとおり、途中の進行管理のときは、例えば最初の 5 年間で 7 万人であったとすると、1 万 4 千人から足していった累計の途中の数字を途中経過と見て進行管理をするのか。今後の評価の話として、どう思っていて、ここで累計を出しているのかが、気になった。

また、部会では、どこまでのイベント参加者数を取るのか、民間のイベントも行政が把握するのかという話があった。この数字からすると、前回の部会で示された行政が把握できるイベントを累計に変えて、数値を見直し、出し直しをしている。部会の話を反映するなら、イベントのカテゴリーについて、64 ページの説明でもう少し書き加えておくべきで

はないか。以上である。

〇会長

意見として伺い、部会でこの辺りも合わせて議論願いたい。

時間が限られているので、次の議題に移る。3 番目の議題で、第２次豊中市地球温暖化防止地域計画素案策定の進捗状況について説明のお願いをしたい。

３．（仮称）第２次豊中市地球温暖化防止地域計画素案策定の進捗状況について

〇事務局

（資料３：（仮称）第２次豊中市地球温暖化防止地域計画（素案）の概要について説明）

〇会長

何か意見、ご質問などがあればお願いをしたい。

〇委員

計画の目標のグラフがあるが、平成 30 年度目標の右側が変に空白になっているように見える。ここは超長期の 2050 年度の表し方を入れたほうが分かりやすいのではないか。本編ではそうなっているかもしれないが、概要版のグラフはここで途切れている。せっかく高い目標であるので、超長期の、70 パーセント削減のラインも入れたほうが分かりやすい。

〇会長

事務局お願いしたい。

〇事務局

本編では、その先のラインも示している。今日の概要版では消えた形になっているが、2050 年度の目標のところまで線が延びた形で載せたい。

〇会長

それは策定の趣旨に明記しているので。何か補足などはあるか。

〇委員

全体の構成として、2050 年目標は大きく立てているが、一方、着地点として、まず 2027 年目標をしっかりやろうと絞り込む構成になっている。この素案の途中からは、2027 年にフォーカスした部分になっているので、その過程のグラフとして、これが出てくるということで理解してほしい。

先ほど丁寧に説明してもらったように、もう 3 回目の改訂になる。1 回目は大きな目標を立てて、数字としては今回も見直す必要がないと判断したくらい、意欲的なしっかりした目標となっていた。2 回目の改訂のときには、豊中市民に温暖化対策を身近に感じてもらうために、豊中の特長をしっかり並べた上で温暖化対策に織り込むという見せ方を工夫した。これにも少し読みにくい部分があるので、温暖化対策検討部会では読みにくい部分は直すなどの意見をいただいているが、基本的には、この部分についてはそのまま残す。

あとは具体的に何をするのかである。これは 1 回目の策定のときにいくつか具体的な政策を挙げていた。例えば、NPO アジェンダさんに省エネの診断や取組みを行っていただい

ているのも、そこから始まったことである。学校ではフィフティー・フィフティー制度ということで省エネ対策を行っているが、これは、光熱水費の削減額に応じて学校の備品などが買えるということで、学校教育にうまく入れ、これはかなり評判が良いと聞いている。このように市民全体で温暖化対策に取り組んでいる意識を醸成することが一番大事だと考える。

先ほど説明があったように、市民のみんなで行うイベントや対策など、豊中オリジナルで何か作れないかと考えている。これは非常に大胆な難しい目標であるが、せっかくやる以上は、そこを考えたい。前回の部会でいろいろアイデアを出してもらった。恐らく次回の部会がアイデア出しの最終回である。そこまでに何か一つでもオリジナルで、市民みんなでやっていることを実感できるような対策が織り込めないか、もう少し相談していきたい。以上である。

〇会長

ほかの委員から何か指摘などがあれば願いたい。

〇委員

今回の目玉は、基本的に適応に関する記述が増えることであるが、その他に、2027 年度目標値の達成で、何が一番効いてきそうであるか。つまり、地域独自の取組み以外の部分で、どれくらい減って、さらに上乗せ部分はどのような部分と見ているのか。例えば豊中の特長 1 として豊富な住宅ストックがあるが、この辺は全体の住宅系のハードとして、どのようにインフラが進んでいくか分からないが、例えば密集市街地系で面的にいくのか、その辺りの検討はどうなっているかを教えていただきたい。

〇会長

事務局、お願いをしたい。

〇事務局

前回 5 月 2 日の温暖化対策検討部会でも宿題をいただいている。いろいろ施策が書いてあるが、どれをやったから、どれだけ削減できるかという数字については、難しい部分があって、まだ出せていない。

一つ、住宅でいえば、面的な計画ではないにしろ、豊中市では太陽光、太陽熱、エネファームの補助を行っている。例えば住宅に関しては断熱が非常に大きな省エネのポイントになる。そういったものも含めて、例えば ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）や省エネ住宅の各リフォームをした方に補助をしていく。豊中市では昭和に建てられた家が半数を占めているが、これから、そういった家のリフォームがあることを見込んで、補助を考えていきたい。

ただ、数字的なものは出せておらず、そこが宿題になっているのが現状である。

〇委員

お伺いした趣旨は、細かい数字ではない。細かい数値を一生懸命計算するためにエネルギーを使ってももったいない。政策に必要な限りの大まかな数値でよくて、科学技術的に

積み上げた細かいものまで市で独自にやる必要はない。

ただ、先ほどお伺いしたように、新規であれば、法規制が入って大きく減る分とリフォームの分とでは大体どのような寄与率であるのか、大まかな割合で良いが、どの辺の施策が有効なのか。公共交通網だけで減るものは、正直に言うと大きくない。国の施策を実施することで減る部分と、地域独自の施策を実施することで効果がある部分。もちろん先ほど委員からお話が出たように、ずっといままで行ってきている省エネ診断系の施策は、もちろん特徴的であるが、そのようものが具体化した時点で、またお話しいただきたい。

○会長

どうぞ。

○委員

いまのご指摘に関して、一つは、国の目標に準じて 1990 年度比-22.4%で計算をしており、国の温暖化対策目標については、いまは積み上げで書いてあるので、リフォームや、新築でどれほどかはこの比率などを使うのは一つある。ただ、ご指摘のあった点でいうと、そのようなハード対策、特にまちなみや建築に対する対策は、もう少し豊中市の、全体の政策のなかでしっかり位置付けても良いのではないかという気もしている。

具体的に言えば、今回の総合計画のなかで、地域別の開発目標のようなものが出てきて、特に新築が入ってくるところに、具体的にもう少し建築の環境性能目標のようなものを与えていくことは、あっても良いという気がしている。

○会長

関連して、交通などの側面では何かあるか。

○委員

交通はなかなか難しい。まさにいま、公共交通の利用が減っている状態をどう表すかを悩んでいる。利用の面ではなく、実態の面、要は供給状態すら押さえていない。そこを押さえることが必要である。先ほど別の委員が言ったように、車が増えるとまずいことはわかっているが、なかなか進行管理に使えるような年々のデータがないことに悩んでいるところである。

○会長

要するにボリュームとして、どのような施策で、どの程度の効果が出るかという可能性が出せれば、適応策を展開するときの意味について市民の理解が深まるのではないか。いろいろな知恵を結集して、その辺りのご検討を願えたらありがたい。

○委員

先ほどの話に関連することであるが、リフォームというカテゴリーのなかで、例えば建て替えするときの庭についてである。豊中市では、地域によってはかなりの庭をお持ちの住宅もある。例えば南向きの庭であれば、落葉樹を植えたらよい、あるいは数本の木を植えるなど、非常に細かい話ではあるが、リフォームだけではなくて、お庭の環境もみどりとつながる。

市民全体に話をつなげるのであれば、市民は生活をしていて、環境問題だけを考えているわけではない。例えば新築のときに、どのような庭のデザインをしようかという、個別の生活の暮らしのなかで、アイデアのようなものも非常に欲している気がしている。そこを全体として巻き起こすのであれば、環境の目標もちゃんと掲げるが、一方で市民の具体的な生活や暮らしのアイデアのようなものが浮き出るような表現が望ましいと感じた。

○会長

きめ細かな、具体的にできる適応策として考えられそうである。

○委員

いまの指摘は非常に重要なポイントである。カリフォルニアにサクラメントという町で市営電力会社が省エネキャンペーンの一環として、自分の家の南側にどのような木を植えたら、電力使用がどのくらい減るというアドバイスをしてくれる窓口を設けている。

○会長

アイデアが浮かんだら、どんどん事務局に寄せていただいて、充実した計画にしていただきたい。

次の案件に移りたい。第３次豊中市環境基本計画素案の策定について説明のお願いをしたい。

４．第３次豊中市環境基本計画素案の策定について

○事務局

（資料４第３次豊中市環境基本計画素案に基づき説明）

○会長

特に目標指標の辺りを重点的に議論できたらと思う。記述の質問も含めてお願いしたい。

○委員

表の、目標１であるが、たくさんの指標が出てきて、分かりにくい。指標を五つぐらいに分けられるのではないか。一つは、環境基準などの指標である。もう一つは市民の満足度、アメニティ関連の指標がある。さらに市民が活動するという活動指標がある。そして四つめに、市民がアクションを起こすという行動指標がある。最後に、行政の政策的なマネジメントに関係するが、支援も含めた意味での指標がある。

ある一定の指標がグループであるという認識とそのグループ間の指標の関係性のようなものが考えられることをお示しした。

○会長

この目標１の指標に関して、この辺りから議論したい。

○委員

現在第２次計画で、数値を取っているものが五つぐらいある。それから比べると、かなり多い。目標１の指標のレベルでないものがたくさん混じっているのではないか。

それと、考え方だが、例えば、先ほどの、みどりの基本計画のなかで、イベント参加者

数という話があった。ここでいう、緑化リーダー養成講座修了者数を例にとると、これは、そこにフォーカスされる一部分である。それを特別にここへ抜き出したものが目標１の指標として取り扱うレベルなのか疑問に思う。あるいは、ほかの目標２から５に関連するテーマの取組みであるマイバッグ持参率やエコショップ認定数は、減量計画のモニター指標などに入ってくる項目である。つまり、個別計画の下のほうに関連するような指標を、あえてこちらの大きなところに持ってきて目標１として設定することが果たして妥当なのか、少し疑問を感じる。

現行の五つは、包括的で大きな数値を取っているので第３次計画でももう少し大きな数値を取らないと、目標１の評価にはならないのではないか。一番上の二つ、環境関連施策事業数や他部局の連携した施策事業数などは、全体を包括する数値として良いが、それ以下については、再検討したほうがよいのではないか。

○会長

ほかにはあるか。

○委員

今のお話を聞いていると、多変量解析したり、主成分分析をかけて求めるのかなと考えた。過去データがあるので、確かに主成分分析をかけられる。先ほど質問があったような、どれが効いているのか、上の二つしか効いていないのかは、例えば去年と一昨年ぐらいのデータを見れば主成分分析が出るのではないか。それは研究のようなことだが、過去データを当たられて、これまでの実績といままでの感触とで行ってみると良いのではないか。10 年ぐらい並べてみてという気がする。

○会長

どうぞ。

○委員

事務局の説明について少しだけ解説すると、基本的には、現計画の指標では、パートナーシップについて測れない。従って、五つ挙がっていても、それはあまり意味がなかったのではないかという認識である。

それに代えて、やはり質で測るのが良いのではないか。そのためには、一体何がネックになっているのか、どの辺りが今年の特徴だったのか、実際にコミュニケーションできる場を作ったほうが良い。資料では発表の場となっているが、まさに意見交換の場でもある。これで基本的にやるということが、まずメインになる。従って、ほかの目標と違って、数値の指標だけで測ることはしないのが基本的な方針である。

それで、発表主体と内容を見ると、従来は個別で、しかも市民のかたがたがどれだけ頑張ったかという指標の数値しかなかった。市民参加がどれだけ進んでいるのか、協働での取組みはどう進んでいるのかという施策に即した３本柱をきちんと入れようとして反映したのが、発表主体と内容という①、②、③である。ここも柱軸を立てて、三つの観点からコミュニケーションができるようにしたい。

最初の①の参画の推進だと、豊中市で発表していただいて、それに対してどこを改善すれば良いか、あるいは、どこが良かったか意見交換するイメージである。

ただ、そうなると、質だけの評価で、数値で測るものがなくて良いのかといった、心配が事務局にあり、補助的に数値で出せるもとして出てきたものである。今回出てきているものは、全部指標にするということではなくて、数値で取れるものはこれだけであるという理解である。

先ほど委員からご指摘があったように、これを全部入れることに意味があるのかについては、これを、例えば幾つか体系的に分類してみる。まさに自主的取組みに当たる部分や、先ほど言った三つの柱、協働取組みといえるようなものなどでまとめてみると、基本的には基本計画の、個別の指標のサブの再掲になる。

そのなかで、例えば緑化リーダーの養成講座修了者数は、イベントに参加していることよりも、むしろリーダー養成の部分が重要である。ここはまだ議論していないところなので、今日はむしろ意見をもらったほうが良い。イベント参加者数という形で見せるのではなくて、参加協働を進めていく上で、どんな施策を組んでいるのかに合わせて、普通に参加するものからリーダーになるものまで、環境教育であれば環境教育系で分けて考えて、指標の見せ方を組む。この他に、このような数値が取れる、あるいは、見せ方として、このような分類が良いのではないかという意見があれば、ぜひもらいたい。また、最初に申しあげた質の部分で、発表の場を設けることに関しては、今回初めて出てきたことである。意見をいただきたい。

○会長

補足的な説明をしてもらった。指標の議論が進みかけたが、基本的には今日の別紙の資料にあるように、定性的な評価を、まず行って、それを補足する定量的なデータを指標として考えていきたい。その辺りの枠組みについて意見をお願いしたい。

○委員

事務局から事前に質の評価の話を聞いた。目標 2 や目標 3 に例えると、質的な評価がそれぞれの「代表指標」に相当するものであって、いまの当日資料 2 にあるものが、「指標」という位置付けと考えられる。構成で言うと、素案の 27 ページでは、「代表指標」が先に書いていないのかという話になる。

先ほどの委員の意見を聞くと、並んでいる数値がほかの目標 2 以降の「指標」と同じ扱いで良いのか、代表指標の補助的な数値指標のような、目標値というウエートではないような捉え方をするのであれば、先ほど発言した理解や捉え方が変わるのではないか。

質で評価すると、例えば環境報告書では、文章的な表現や状況説明になる。それだけで良いのかということに対して、補助的な数値でする。ほかの目標 2 や目標 3 でいう「代表指標」と「指標」とは、少し関係性が違うのではないか。その意味では、例えば 27 ページでは「指標」という見出しであるが、「代表指標」の補助的項目的な扱い方をされるので良いのではないか。その意味でいうと、当日資料 2 のなかで適切なものは分類してまとめ

て、それが仮に資料5のように、①、②、③などの質の柱があるのであれば、その質の柱に沿った補助的な数値という分け方をして出していくのではないかと理解した。

○会長

関連して、何か意見はあるか。ここは非常に大事なところである。

○委員

先ほどの委員のお話を聞いて、やっと認識ができた。パートナーシップや参加、参画を意識するような、気付きを促すようなコミュニケーションがあって、それを巻き起こすために、補助的に指標があるという認識でも良いであろう。そうなってくると、指標も、市民が話しやすい、議論ができる、あるいは気付きを促すような指標の表現、分類が必要になってくるという認識でよいか。

○委員

ここはまさに議論したいところである。まず、先ほど委員が言ったことは、まさにそのとおりで、他の目標とは少し違った記載になる。それ自体が気持ち悪い、あるいはおかしいという意見があったらいただきたい。

次に、ご指摘については、まだ全然詰めていない。今日議論や意見があればいただきたい。例えばこのような部分で広がりができた、参加する年代層が増えた、あるいは、ほかとのつながりができたという幾つかの定性的な指標のようなものがある。ここで発表される内容は、ここがプラスだった、良かったところであるというところを挙げてもらう。

ただ、それとは別に、数で測れるものが何もないのはいかがなものかという意見もあるため、数で測れるものを並べている。定性的なチェック項目や指標のようなものは非常に良いアイデアである。イベントや交流会のときに、それらを出せるのであればチェック項目のような形で出して、その他に、例えばこのような数値は全くなしでいこうという意見が強ければ、それはそれで良い。しかし、協定などは増えているほうが良いなど、もう少しまとめ方を変えて、違う視点で、ここで並んでいるものを数値として取ったほうがよいのであれば、そのような形で議論をしていくのが良い。意見があれば、今日アイデアをもらいたい。

○会長

ほかにいかがか。

○委員

質の評価の話であるが、例えば幾つかの取組みを発表してもらう。10年間の計画であるので、同じ取組みを毎年発表していくかというと、多分そうではない。資料5の②で例に取ると緑化、ある年は緑化リーダー会の取組み、他のある年に自主管理協定の取組みを取りあげるという話になる。

今回の事務局の資料として、指標と書いているほうで、例えば緑化リーダー養成講座の修了者数というのは、緑化リーダー養成講座を修了した人が、緑化リーダー会に入って、いろいろな取組みをし、みどりのカーテンの取組みをしていることが、この指標の一番下

にきている。これはつながりのなかで、こちらは数字で、こちらは取組みということを示している。

しかし、緑化リーダー養成講座やみどりのカーテンを補助的な数字に入れてしまうと、テーマに取り上げない年も補助的な数値になってしまう。その意味でいうと、一番上の関連施策事業数などは、共通的な施策数であるので、毎年の補助数値として入ってもよいかもしれない。しかし、例えば市民やNPOの自主的なこれからの支援促進というものは、毎回取り上げる質的評価をする対象の取組みについて取れる指標を数値でも評価するようなニュアンスではないか。

つまり、最初の環境基本計画を立てるときに、全部の補助的な数値を明確にして、この数値は10年使えるということでいくのか、あるいは、その時々のテーマに応じた補助的な数値を量的にも評価することを毎年個別に設定していくのか。その意味でいうと、個別に応じた例で今回示しているのであれば、そのような整理になるのではないかと思った。

○会長

事務局からお願いをしたい。

○事務局

当日資料2の説明が十分でなくて申し訳ない。少し説明をしたい。当日資料2の上から二つ、環境関連施策の事業数と、他部局と連携した施策の事業数については、その右の欄に、指標の示すものとして記載している。環境政策の総合的な、計画的な推進状況を示す。これについては、素案の29ページを見てもらいたい。これが施策4の1の1に当たる部分を評価するための指標で考えられるものとして記載をしている。

次に29ページの4の1の2のところを見てもらうと、環境情報の提供という施策がある。ここが当日資料2でいうと3行目と4行目、環境交流センターのホームページを更新するということで、環境情報の提供状況を示すことである。当日資料の10行目までは、それぞれ4の1の1から3の施策に関する指標として作らせていただいている。その下については、4の1の4の協働とパートナーシップに基づく施策の推進に関するものとして取り上げている。

従って、こちらの10行目以降については、後ろの環境目標2から5と重なる部分がある。それぞれの分野での協働取組みがあるので、そのようなところからピックアップしていて、なおかつ、先ほどの活動団体の発表の場で発表される内容ともかぶる部分がある。ここの指標の上の10行目までと、その下の部分を示すものが違っている。説明が十分でなくて申し訳なかった。よろしくお願いをしたい。

○会長

いままでの議論では、基本的に目標1の評価の仕方として、まず定性的な評価を最初に持ってきて、次に、それを補足するような定量的なデータという枠組みでやることに関しては、特に異論はないという理解でよいか。

定性的なところは、まだなかなか見えない部分もあるので、その辺りは時間の許す限り、

より具体的なイメージを共有化したい。それから、定量的なところのバックアップとして、事務局から説明があったものを踏まえると、先ほどから議論のある定性的なものを補助的に示す指標である。それは多分、当日資料の後半に書いてあるものを、発表主体と内容によって、先ほどの三つの柱に対応する指標としてうまく整理することである。もう一つは、施策の１の１から１の３に関わる指標である。これもイベントの参加者数などについては少し整理がいるが、包括的な指標として再検討する方向だと理解したが、どうか。

○委員

この当日資料２は、まだ部会では全然検討していない、私も今日初めて見た資料であることを、まず前提としたい。前回の部会では、質的な評価と、補助的に数値で出せるものを検討しようというところまでであった。事務局としては、今日具体化イメージの資料を作って出してくれた。

基本的に質の話は、発表会のようなものと、先ほどの質的な評価のチェックポイントとなるようなものは非常に重要である。例えば市では、市民参加推進としてどのような発表をするかというと、先ほどのみどりの基本計画では、パブリックコメントの前に説明会を開くことにした。これは、より早い段階での参加の取組みを促進することであるので、それについて、例えば発表してもらう。そして、その説明会の効果はどうであったか、その後のパブリックコメントはこのようになったという形での意見交換をする。そして、このようなものをどんどんしたほうが良いのではないか、あるいは、説明会をやるのであれば、資料はこんな作り方が良いのではないかという議論ができれば、実質的に進むのではないか。そのために早い段階での参加や、分かりやすい説明会の開催などのチェックポイントを幾つか作ってみることが良いと思った。

また、全部発表をやるわけにはいかない。それはおっしゃるとおりで、前回の部会でもどんなやり方が良いかという意見が出た。例えばテーマ別に、今年は「循環」、今年は「みどり」という形で回していくのが良いであろう。あるいは、その年に何か特徴的なものがあって、提案して行うのがよいという意見が出ている。その辺の意見があったら伺いたい。

それから、数値については、イベントなどは丸められるところであるので、丸める。パートナーシップのところは、ひょっとしたらもう少し質的な組み替えができるのではないかと思うが、いまは思い付かない。また、目標のところで、「増加していくことが望ましい」と書いてある。これは定性的な上に、さらに望ましいまで付けるのはいかがなものか。例えばイベントの参加者数など、ほかのところでは「増加」となっている。これは全て「増加」ということでまとめてもらいたい。

○会長

事務局、特に意見があれば。

○事務局

望ましいは取っていく。

〇会長

この目標1に関して意見があるか。いまもらったような内容で、部会で議論を深めることでよいか。

では、それ以外のところで意見などがあればお願いをしたい。

〇委員

目標2・3・4でそれぞれに意見がある。現行の第２次環境基本計画には、目標2のところに、2050年に70パーセント削減すると表記がある。しかし、今回の素案では、2050年についての記載が全くないので、表記を考えてもらいたい。

次に、指標の部門別温室効果ガス排出量についてであるが、現在「とよなかの環境」のなかで報告が載せられており、割合ではなくて総量として表記すべきではないかという意見が出ていたことがあった。その際に、現行計画が割合で標記しているので、パーセントで表しており、総量は「とよなかの環境」に出さないという事務局の回答があった。パーセントで指標を設定することは良いが、今後進行管理をしていくときに、どのような数値を使っていくのか、パーセントそのものに異論はないが、総量が必要なときは評価に入ってくるのか、少しその辺は検討してもらうことを願いたい。

それから、目標3については、現行の第２次環境基本計画では、関連指標に当たる項目のなかに最終処分量が入っているが、今回の指標のなかにはそれが含まれていない。最終処分場は埋め立て量に影響する話で、もともと重要な指標としていたが、今回なぜ入っていないのか。その辺について、廃棄物減量等推進審議会でどういった議論があったかを教えてもらいたい。

それから、目標4であるが、生物多様性の認知度の話で、何をどう取るのかが全くわからない。市民が生物多様性という単語を知っているという認知度を聞きたいのか。しかし、指標を示すものは「生物多様性に関する」となっており、抽象的過ぎる。事務局として何を想定しているのかお聞きしたい。

それから、39ページでは、指標の上から四つは、みどりの基本計画に含まれており、その下にみどりの基本計画が含まれない指標が二つ付いている。ところが、40ページからの展開を見ると、生物多様性認知度調査の実施は40ページの②の、生物多様性のなかに、鳥獣保護と並んで入っている。ほかのラインアップは全て、みどりの基本計画の40数個の並びのなかに含み込まれている。私のイメージとしては、指標にあるように、下に付いているわけであるから、4-4-3のあとに生物多様性の4-4-4が入ってきて、みどりの基本計画から展開したものではない項目が新しく立ち上がってくるのではないか。

それから、もう一つ、現行の40ページで、「生物多様性に対する関心を高めるための普及啓発に努め、策定に向けた取組みを進めていく」とあり、生物多様性地域戦略について機運が高まったら作ると言っているように見える。計画や戦略は機運が高まったら作るものではなく、喫緊の問題として必要なのではないか。普及啓発に努めることは重要であるが、その順序で良いのか疑問が感じられる。以上である。

〇会長

最初の 2050 年 70 パーセント削減という話は、先ほど議論があったように、これはその表記をする方向でよい。次の部門別の排出量の割合、総量については、そのような議論が確かにあった。その辺りから少しお願いをしたい。

〇事務局

部門別については、これまでパーセントで出してきているが、量で出すことも問題ない。ただ、常時出す場合に、どちらが分かりやすいかということがある。これがパーセントであったら、棒グラフが横に折れ線グラフで 5 本、5 部門を一つのグラフで入れられて、何が増えていて、何が減っているかが一目でわかる。しかし、例えば帯グラフ、リボングラフのように縦に各部門別でいくものになったら、部門ごとの比較は少し難しくなると感じている。それはどちらも可能だが、見た目での分かりやすさの問題である。

〇委員

パーセントで出すことに異論はない。進行管理が進んでいくと、報告書はパーセントでしか載せないということになって、数値は指標に入っていないから載せないとなるのではないかということである。進行管理のときは市民に分かりやすく示すために、それ以外の数値も柔軟に対応することができるのか確認したい。運用の仕方を確認したかっただけである。必要であれば柔軟に対応することが明確にされるのであれば、何かを盛り込んでほしいというわけでもない。進行管理していく期間が長いこともあり、懸念しているだけの話である。

〇事務局

それは、資料編のモニター指標のなかに盛り込むということでも良いのか。進行管理していくなかで、「とよなかの環境」がどのような紙面構成になっていくかもあるが、目標 2 のところは関連指標がたくさんあり、コラムさえ載せることができないくらい紙面に余裕がない。

例えば、モニター指標に盛り込み、紙面で余裕があったら、ご紹介することもできる。

毎年出す項目として、量を入れるべきなのか、必要なときに紹介することでよいのか、または、資料編で数値が把握できたらよいということなのか、どのような感じのことかお聞きしたい。

〇委員

いまの説明で疑問が増えたが、代表指標があって、関連指標があって、さらにその下に、またそれぞれのモニター指標が設定されるということか。

〇事務局

現在、資料編のモニター指標で、分野ごとの細かいデータがある。そちらは今後のまだ整理が十分できてないが、必要ない指標は外して、あったほうが良いという指標や全体像を見ていくのに必要な指標があれば、モニター指標で残していく。

〇委員

基本的にパーセントでよいが、必要なときに出すことの制約がなく、柔軟な対応ができることを担保していただけるのであればよい。モニター指標が適切であれば、それも一つの方法かもしれない。関連して、パーセントの前に数値を取っているから、出したいときに出せるということであるなら、それでもよい。

〇会長

進行管理をするなかで、常に確認できるデータはご提示されるという理解でよいか。

〇事務局

部門別の量については、どこかに記載をしていくことで、進めていく。

〇委員

感想として、いままでの議論のなかで、非常に市民の参加、参画が少ない状況があることがベースにあった。その人たちに、一緒に環境問題を考えようという動きを付けるために、このような非常に画期的な活動団体の発表の場ができて、それを共有しようという話になったわけである。

そこでコミュニケーションするなかで、そこで議論したことが定性的な指標として出てくる。新たにこれから作られる指標がたくさんある。議論のなかで毎年指標が違っていて、出てくるのが本当である。

2 点目は、いまでも行政として蓄積している指標があるので、情報開示を積極的にしてもらう。議論ができるような情報開示の仕方が必要である。

3 点目は、28 ページのパートナーシップ評価のなかで、図のなかに出てきていない主体として、議員がある。この状況をちゃんと見ていただき、議会できっちりと討論にてもらうという役割も担ってもらう。全体像をそのように組み替えると、非常にダイナミックな進行管理となる。

〇会長

計画目標は 10 年であるが、5 年ぐらいで中間見直しをするのか。

〇事務局

中間見直しについては書いていない。社会情勢など必要があれば見直しすることとしている。計画見直しをする際にアンケート調査などを含めると、計画策定に 3 年かかる。5 年で見直しすると、策定後 1～2 年したら、また改定準備になる。2 年しか実績がないのに、また次の計画づくりに入っていく。期間が短いと課題などが見えにくいこともあるので、あえて中間見直しについては触れていない。

〇会長

確かに指標をがっちりと固めて、10 年これでいくという発想は難しいのかもしれない。いわゆる生態学でいう順応的な管理で、常に確認をして、よりベストな方向へいく。これは計画を見直すという話ではなく、指標のところを追加・付加していくという考え方である。そのように緩やかな捉え方をしておくほうが、良いかもしれない。PDCA で毎年回すわ

けであるから、次はこのような獲得したものを付加しようということであれば、あまりここでがちがちにやらなくてもよいのではないかという気がした。

〇委員

先ほどの委員の質問についてはどうか。

〇会長

目標 3 の指標や、生物多様性の話を少しお願いしたい。

〇事務局

目標 3 であるが、現行の豊中市の一般廃棄物処理基本計画の代表指標は、ごみの総量を減らすというものである。それに伴う関連指標のひとつとして、最終処分量を見ているところであるが、現在、廃棄物減量等推進審議会において議論になっているのは、豊中市伊丹市クリーンランドのごみ焼却処理施設において、その処理能力を鑑みたときに、余力を持って処理できるごみの搬入量にすべきという観点である。また、将来の人口動向を鑑みたときに、新たなごみ減量に関する目標を設定する必要があるので、そのなかの議論として、代表指標としてごみの総量ではなくて、喫緊の課題としてごみの焼却処理量を減らしていこうということである。戻り可燃も含めた可燃ごみである。そのような議論をしている。それに伴う関連指標ということで、最終処分量が抜けているところである。

〇会長

取りあえず最終処分量は、指標として入れるという方向であるか。入れないということであるか。

〇事務局

代表指標のなかでいうと、可燃ごみを減らしていこうということである。最終処分量とは焼却と破砕したものである。

ただ、廃棄物減量等推進審議会の議論のなかでは、いわゆる関連指標が変わったとしても、いままでの数値はしっかりと今後も見ていく必要があるという意見はいただいている。

〇会長

それではもう一つ、生物多様性に関してお願いをしたい。

〇事務局

まず、生物多様性の認知度について、これは国家戦略のなかでも生物多様性について知っているかという認知度を確かめていくこととしているので、豊中市においても、まず生物多様性という言葉を知っているかを、イベントなどのアンケートに、混ぜ込んでいこうと考えているところである。

場所について、生物多様性の保全というところがあったので、そこのなかに生物多様性で取り込んでいるが、それを特出ししたほうがよいのかどうかについては、新たに検討する。

〇委員

一つ目のご回答で、39 ページだと、それはまさにダイレクトに生物多様性の認知度であ

るという説明ならば、この生物多様性に関する指標とは、どのような理解なのか。

○事務局

最初、生物多様性に関する指標として、細かく幾つか考えられることを挙げた。それをまとめて、グループにしたものを残しただけになっている。ここは表現的に、指標の示すものは認知度そのものになるので、表現を改める。

○委員

もう一つ。仮に指標が認知度だとする。それは 40 ページの説明文にあるような施策や、今後も行っていく取組みと一致するのか。要は、「関心を高めるための普及啓発に努め」となっている。それと認知度はつながるかもしれない。一方、「生物多様性の策定に向けて取組みを進める」となっている。そうすると、認知度が高まったら、生物多様性戦略を策定するのかという、逆の質問が生まれる。それから、国家戦略の認知度とは、生物多様性という単語や概念を知っているかという認知度である。それが生物多様性を保全する項目に、単純な用語や概念の理解というものが指標として適当なのかということに、少し疑問がある。

○会長

意見としてお互い少し検討していただければどうか。

○委員

前回の部会の、議論の段階では、生物多様性に関して国が指標として挙げているもののなかの一つが、この認知度であった。ここに挙がってきているものは、主として、実現可能性があるものを書いている。これで確定ではないので、むしろ代替的にこのような指標も取れるのではないか、そのほうが実効的なのではないかということがあったら、出していただきたい。そして、それを検討したほうがよい。

それと 40 ページとの関係であるが、重要な中身が書かれているところであるので、特出しにしたほうがよいのではないか。

それから、「生物多様性に対する関心を高めるための普及啓発に努め」というところだが、「努めるとともに」という表現でよろしければ、そのような表現にしたほうが、誤解がなくて良い。

それで、「努めるとともに」となれば、「生物多様性の認知度」でも、指標としては良いが、その後半部分も含めて、それに向けた取組みで、より良い指標があれば出していただきたい。

パートナーシップや生物多様性については、指標そのものが必ずしも十分に確立していない側面がある。パートナーシップについて発表の場という形で質的な推進を図るとともに、指標そのものの改善、開発も計画期間内にめざしていくという形で入れる。指標であるから、もちろん経年変化が見られなければいけない。変えてはいけないものもあるが、これまで発表の場で出てきたものなどについて随時指標の改善を図っていくことを全体の指標の考え方として、基本計画の最初のほうに付け加える形ではどうか。

○会長

40 ページの施策の方針で、生物多様性の保全という特出しにあるという方向を出した。同時に、その位置付けも非常に緊急の課題を受けるということで、その辺りについては、特に異論はないか。

○委員

目標 2 と 3 については、基本的に各部門計画を持ってくる。目標 4 もみどりの基本計画から環境基本計画のなかに入れる。目標 3 の廃棄物であるが、これは、国で第 3 次循環型社会形成推進基本計画の見直しをかけて、2R 重点や、第 3 次の見直しの幾つか基本的な柱がある。第 3 次循環型社会形成推進基本計画の見直しのなかで、自治体関連の部分が幾つかあるが、それの検討はしているのか。例えば、福祉と環境政策の連携の部分でいうと、全国的には、高齢者がごみ出しをできないという状況が生じている。それで、個別回収に向けたものなどが大きなテーマとして入ってきているが、その辺りはどのような形になっているか。少し教えていただきたい。

○事務局

一般廃棄物処理基本計画と併せて、ごみ減量に関わった部分の新たなごみ減量計画というものが議論になっている。そのなかで、審議会の委員から出た意見として、いまおっしゃっていただいたように、高齢者の対策が少し抜けているというご指摘をいただいている。

福祉との連携でいえば、平成 19 年からひと声ふれあい収集を実施し、一定の要介護度や障害をお持ちの世帯に対して、個別に玄関先まで回っている。併せて、ひと声かけることによって安否確認を行い、福祉との連携を図っているので、その辺りもしっかりと書ける部分は書いていきたい。

○会長

お願いをしたい。

○委員

先ほどの最終処分量がここに出てきていないのはなぜかという話とも関連するが、廃棄物は先ほどの廃棄物処理法絡みで、廃棄物の処理計画を作って、ずっと回してきていることもある。また、現在は喫緊の課題として人口が増え過ぎてしまって、ごみが多くなってしまっている。1 人当たりは減っているが、全体のごみ量が増えてしまったので、焼却処理量を減らすことが喫緊の課題で、計画を作っている。そのなかの環境に関連する部分を抜き出してきているので、その点について、事務局が書き出せるところは書き出してもらえる。それはそれで順調に回っていて、廃棄物の処理のなかで関連するところを環境基本計画に出してきているのが状況ではないか。

○会長

ほかにあるか。

○委員

生物多様性の認知度に代わる指標があるのであればという話であるが、それについては、

私どもは実際いろいろな生物多様性の取組みをしているので、逆に新たな指標を提案できるのかということについて考え、適切な提案があるのであれば行いたい。

それから、最後に4ページのことを質問したい。4ページの総合計画のところであるが、総合計画の進行管理で行われる意識調査の内容で、2 項目書いてある。進行管理に活用するものとすると書いてあるが、どのように活用されるのか。例えば、この項目に相当するアンケートの結果が後ろの目標1から5の指標などに入っていないように見受けられたが、どのようなつながりで、どこに生かしていくのかがわからなかったので、これを教えてもらいたい。

○事務局

これまでの進行管理のなかでも、例えば目標1のところであれば、実際に環境に関する取組みをしている人の割合を、総合計画のアンケート調査から数値を取り、進行管理に用いていた。今回は少し総合計画と施策の体系が変わるので、まとまった形のアンケート項目になっている。

これについては、目標1から5としては、個別に分けて進行管理のなかには入れていきにくいので、どのようにしていくか、事務局としてもまだ考えているところである。せっかくアンケート調査で市民意識を取っているので、なんらかの形で活用し、「とよなかの環境」に乗せて、その個別の課題の1から5については、このような進捗状況で、総合計画で調べているところではこうであることを示したい。もし施策の状況の進行管理に活用できる方法が思い付いたら、また提案をしていきたい。

○会長

これは指標との関係もあるので、推進部会で、この総合計画の意識調査の取り扱いを検討していくことにしてもらいたい。

５．その他

○事務局

（豊中市伊丹市クリーンランド展望フロア一般開放デーのお知らせ）

○会長

ほかにあるか。なければ審議会を終了する。

以上